

くらしの目線で 市政を変える

伏見区 京都市会議員

西野さち子

西野さち子の取り組みです

- 焼却灰溶融施設を契約解除に追い込む 2
- みなさんの署名の力で願い実現 4
- みなさんと一緒に「原発ゼロ」めざし行動 6
- くらしを守るために、全力をあげます 8
- 日本共産党市会議員団の活動 10

西野さち子

Nishino Sachiko



「ゴミ問題を考えるつどい」で報告・講演
(2011年11月25日))

Profile

1950年(昭和25年)4月17日生まれ

市会議員4期15年間。醍醐コミュニティバスの運行に向けて住民運動を大きく広げ、醍醐コミバスに敬老・福祉乗車証の使用を実現。醍醐和光寮の改築や市営住宅の風呂がま改修の公費負担の実現をすすめる。また、焼却灰溶融施設の問題では、契約解除に追い込む上で大きな役割を果たす。

労働組合職場委員、民青同盟常任委員、共同学童保育所運営委員長、市議会厚生委員会委員長など歴任。

●ご意見・ご要望は下記までご連絡ください。

日本共産党京都市会議員団

2014年3月
京都市中京区河原町御池 京都市役所内
TEL. 222-3728 FAX. 211-2130

E-mail. info@cpgkyoto.jp
京都市会議員団



「市民の会」のごみ問題学習会で報告(2012年8月)

あいつぐトラブル 焼却灰溶融施設の工事

| | |
|-----------|---|
| 2009年 12月 | 耐火レンガの不具合が発生し、試運転が2カ月遅延 |
| 2010年 4月 | 排水から基準値の42倍ものダイオキシン類を検出し、試運転を中止 |
| 2010年 5月 | 住友重工が工事遅延を京都市に申し入れ |
| 2010年 9月 | くらし環境委員会で住友重工を参考人として招致し意見聴取 |
| 2010年 12月 | 2号炉で耐火レンガの亀裂を発見 |
| 2011年 10月 | 2号炉の二次燃焼室にダストが堆積し、1000℃の塊が水槽に落下。労働者が負傷。 |

市長は施設に固執し、何度も住友重工と協議するも、決断せず

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 2011年 11月 | 市長が住友重工と協議し、「時間をかけて総点検を」と指示 |
| 2012年 4月 | 京都市と住友重工が協議したが、「対策案」を確立できず |
| 2012年 7月 | 引き渡し期限を「2013年8月末日」とする社長名文書を提出 |

約束の期日に間にあわず、 契約の解除へ

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 2013年 5月 | 1次試運転を実施 |
| 2013年 6月 | 2次試運転を中断(1次試運転時になかった箇所にダストが堆積) |
| 2013年 7月末 | 京都市が「期日としていた本年8月までに引き渡しを受けることは不可能」と判断 |
| 2013年 8月 | 住友重工に対し契約解除を通告 |

2012年8月、「市民の会」がごみ問題の学習会を開催。「こんな工夫をして、ごみを減らしている」など様々な意見が参加者から出されました。私は溶融施設について報告し、「ごみ減量に結びつかない焼却灰溶融施設は中止すべき」と訴えました。

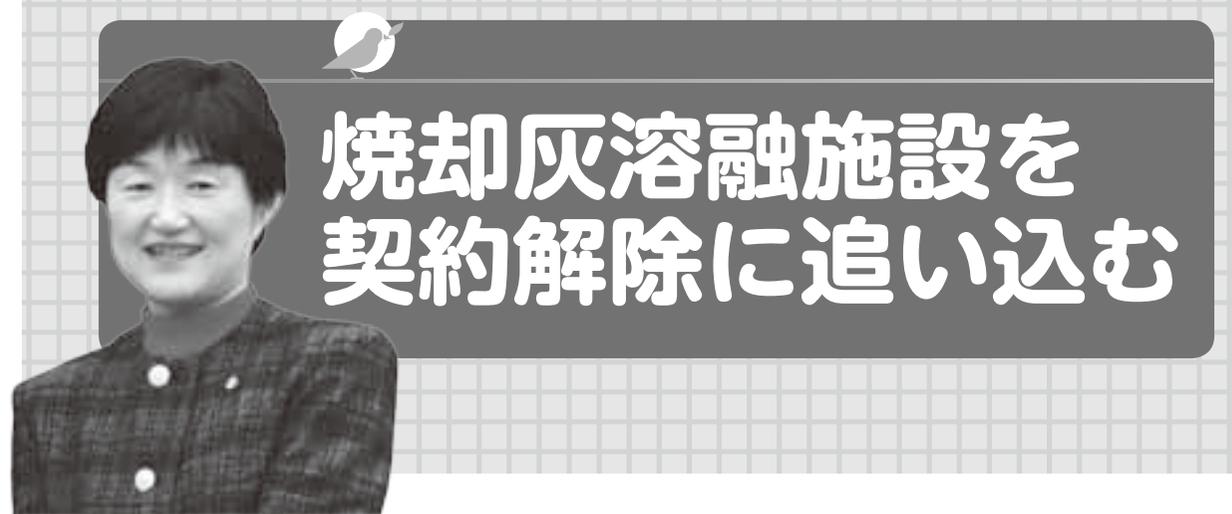
ごみ減量化に 取り組むことこそ 今日の課題

昨年8月、京都市が住友重工に対し、「約束の期限内の引き渡しが可能になった」として、契約解除を通告したのを受けて、「市民の会」が市長に対して溶融施設からの完全撤退を申し入れ。「溶融施設に使用した175億円をすべて返還してもらおうべき」「市長は市民に謝罪し経過を報告すべき」と求めました。



「市民の会」の申し入れに同行(2013年8月)

溶融施設からの完全撤退を 「市民の会」が申し入れ



ダイオキシン検出の事故現場を調査する
日本共産党市議団(2010年12月)



事故現場を調査する日本共産党市議団
(2011年12月)

焼却灰溶融施設は いららない

2011年5月から溶融施設の試運転を開始するとの連絡が京都市からありました。その一報を受けて、「醍醐の自然を守る会」は本格稼働中止を京都市に申し入れ、広く住民への説明会を開くよう求めました。

1000度の灰の塊が落下

次ページの表のように、トラブル・事故を繰り返した溶融施設。2011年10月には、1000度の灰の塊が落下し、職員がやけどをする事故も起こりました。市議団は、負傷者が出てしまった事故現場を視察し、「事故続きの溶融炉はいらない」と議会での追及をいっそう強めました。

私は「ムダ遣い・危険な焼却灰溶融施設はいららない」と、市民とともに取り組んできました。昨年8月に住友重工との契約解除に追い込んだのは、ねばり強い市民の運動と党議員団の共同の結果。遅すぎる契約解除の判断で、市長の責任は重大です。

みなさんの署名の力で 願い実現

市営住宅の風呂がまは 京都市の責任で 取り替えます

日本共産党市会議員団の予算要求書に対し、「市営住宅の風呂がまは京都市の責任で取り替えます」との回答がありました。この間、醍醐地域の市営住宅から多くの署名と請願が出されてきましたが、紹介議員となるのは、いつも共産党だけでした。議会のたびごとに京都市に要望し、ねばり強い市民のみなさんの声と力をあわせて、ついに願いが実現したものです。



風呂がまの問題について報告(2013年3月)

「東余熱利用センター存続を」 風呂・図書館が残りまし

東部クリーンセンターの閉鎖に伴い、東余熱利用センターも終了に。「東余熱利用センターを残してほしい」との市議会への請願は、日本共産党以外の反対で不採択となりましたが、住民の声が広がる中、老人保養センターと図書館は残ることになりました。議会では、ペレットボイラーの設置や太陽光発電等の設置、温水プールの継続を求めてきました。



東余熱利用センターの存続を求め署名行動(2012年11月)

「高齢者の命綱」 緊急通報システムの 改善を申し入れ

緊急通報システムの利用料値上げの通知に利用者の不安が広がりました。

日本共産党市会議員団は、2012年6月、保健福祉局長に「通知の最初に取り外しの案内をするのは不適切」「緊急通報システムの意義を知らせ、利用をふやすための周知が不十分」と指摘し、改善して使いやすくするよう求めました。対応した局長は

「一人暮らしの高齢者の訪問のさい、適切に案内する」と表明しました。



京都市に申し入れ(2012年6月)

府南部の豪雨対策で 申し入れ

府南部の豪雨対策について、2012年9月、日本共産党市会議員団として京都市に申し入れました。この問題で、府は補正予算を提案し、被災者生活再建支援法が適用されない地域でも、床上浸水の場合、住宅再建費用等の一部を上限50万円まで補助することになりました。

申し入れでは、京都市が府の補助制度の受け皿をつくるとともに、店舗や商品が被害を受けた場合の国保料減免、水道料金の軽減などの検討を求めました。



京都市に申し入れ(2012年9月)

2013年 台風18号 浸水被害の青空相談会を開催 深刻な実態が明らかに

10月5日の朝、浸水被害の現地にテントを張って、青空相談会を開きました。午前10時～12時の2時間で、13人の相談が寄せられました。

相談者は途切れることなく来られました。最初は「共産党は何をしてくれるの」と半信半疑でこられた方もありましたが、「来てよかった。聞いてもらえただけで気持ちが落ち着いた」「町内を代表して相談に来ました」という人も。車の被害が最も多く、「車の罹災証明を出してほしい。商品の被害の補償はありますか」という相談もあり、京都府と京都市の支援策を説明しました。



みなさんとご一緒に 「原発ゼロ」めざし行動

京都市の原発対応は 抜本的見直しを

京都市防災対策総点検委員会が提出した「中間報告」には、「琵琶湖に放射性物質が飛散しても水量が多いので薄められる」など、原発事故に関して被害予測を過小に評価する等の重大な問題点がありました。

日本共産党市会議員団は2011年9月、原発の安全神話は崩壊しており、市民に新たな不安をもたらすことは許されないと、京都市全体を視野に入れた原子力防災対策や琵琶湖の水汚染の危険性を直視した防災対策を確立するよう申し入れを行いました。



本会議で代表質問(2013年5月)

敦賀原発見学ツアーに参加

日本共産党伏見後援会と伏見女性ネットの取り組みで、敦賀原発の見学ツアーが取り組まれ、参加しました。

ツアーの途中から元原発労働者の山本さんが道案内と説明に参加されました。「敦賀原発には防波堤がない。地震で建物が崩壊することなど想定していない」「敦賀原発の計画が出たのが1950年代。当時、1世帯に3000万円が配られた」などの生々しいお話にショックを受けると同時に、常識では考えられない「原発マネー」のばらまきにあ然としました。



バイバイ原発 醍醐パレードに1000人超

2011年12月、小栗栖児童公園にかざぐるまを持つ人、笛や太鼓を持つ人、「脱原発」のたすきをする人など1000人以上が参加。「原発はいらない」「日本から、世界から、原発をなくそう」と声を出しながらパレード行進をしました。車からクラクションや手を振る人、家の窓からも声援があり、反響の大きさに参加者は大きな元気をもらいました。



醍醐パレード(2011年12月)

バイバイ原発 伏見パレードに 多くの若者が参加

2012年5月、エコロジーセンターの北東にある西裏南公園をスタートして、龍谷大学の正門まで、「バイバイ原発」「再稼働やめて」のアピールをしながらパレード行進をしました。今回は、とくに若者の参加が目立ち、全体の参加人数も多くて、大変盛り上がりました。



伏見パレード(2012年5月)

大飯原発再稼働方針の 撤回を申し入れ

政府が大飯原発再稼働の方向を示す中で、関西広域連合が「声明」で、「政府の暫定的な安全判断であることを前提に、限定的なものとして適切な判断をされるよう」と、再稼働を容認しました。

日本共産党市会議員団は、2012年6月、市長に対し「原発再稼働は認めない立場に立つて、政府と広域連合に対し、大飯原発再稼働方針を撤回するよう要請することを」求めました。



京都市長に対し申し入れ(2012年6月)

くらし守るために 全力をあげます

トピックス

Topics.1 関西盲導犬協会を訪問



盲導犬といっしょに

醍醐の方から「日本では盲導犬への理解が遅れている。もっと多くの人に現状を知ってほしい」との声が寄せられ、さっそく亀岡にある関西盲導犬協会を訪問して、お話を聞きました。

日本では、盲導犬を連れて自由に出入りができる施設が少なく、公共交通機関の利用にも気を使うことが多いとのこと。また、府からの助成金が少しあるだけで運営が大変です。もっと多くの方に現状を知っていただき、京都市にも支援制度をつくるためにがんばらなければと思います。

Topics.2 敬老乗車証の負担増は許せない 決算議会で質疑

2011年9月市会の決算審議で、「京（みやこ）プラン」で見直し項目にあがっている敬老乗車証について質疑しました。

「財政再生団体になると市民を脅し、市民サービスを切り捨ててきた市政は問題。財政改革の実施計画は市民生活を守る視点で取り組むことが重要だ」と指摘し、「敬老乗車証の見直し・負担増は絶対にすべきでない」と追及しました。この時、部長は「縮小するという意味ではない」と答弁しましたが、その後、乗るたびに料金を払う「応益負担」の方向が出されてきています。

Topics.3 各地で議会報告会を開催



議会報告会(2012年7月)

参加者からは多くの質問や意見が出され、どの会場でも時間が足りなくなりになりました。

2012年7月に、3カ所で府市政報告会を開催しました。市民サービスを4年で250億円削減するための「京プラン実施計画」の内容について紹介。高齢者の命網である緊急通報システムの利用料を値上げする一方で、毎年20億円必要な焼却灰溶融施設に固執し、リニア中央新幹線誘致などのムダ遣いがされていると報告しました。

Topics.4 生活保護切り下げを許すな



伏見生健会のみなさんと街頭から訴え(2013年1月)

課税や就学援助の基準、最低賃金の引き下げなど国民生活のセーフティネットを直撃するものです。

安倍政権が生活保護基準の3年間で約7.3%の引き下げを打ち出す中で、昨年1月、伏見生健会のみなさんや倉林明子さんとともに、東大手筋で「生活保護切り捨てを許すな」と訴えました。

保護基準の引き下げは、保護世帯だけの問題ではなく、住民税非課税や就学援助の基準、最低賃金の引き下げなど国民生活のセーフティネットを直撃するものです。

Topics.5 橋下大阪市長の 慰安婦発言に抗議



地下鉄醍醐駅前前で抗議宣伝(2013年5月)

橋下大阪市長の「従軍慰安婦は必要だった」「風俗を活用すべき」発言は、女性だけでなくすべての人間に対する許せない侮辱です。

昨年5月、橋下発言に怒っている地域のみなさんとともに地下鉄醍醐駅前前で抗議の宣伝を行いました。橋下市長は言い訳を繰り返すのではなく、発言の撤回と謝罪をすべきです。

市民とともに 市政を動かす

14人の日本共産党京都市会議員団

14人の日本共産党京都市会議員団は、市民のみなさんと力をあわせ、市民いじめの悪い政治とキッパリ対決して、市議会でねばり強い論戦をおこなうとともに、つねに建設的な対案を示し、みなさんの切実な要求や願いを次々に実現させてきました。



安倍内閣の暴走にストップを

国民の「知る権利」を奪う秘密保護法の強行成立、消費税増税、社会保障解体、TPP強行、原発推進など、安倍自公政権は、あらゆる分野で暴走を続けています。共産党議員団は、安倍政権の暴走にストップをかける国民的運動の先頭に立つとともに、門川市長に対し「市民のくらしを守る立場から国に対し物を言うべき」と迫ってきました。しかし、市長は国いなりで、消費税増税や社会保障解体も推進の立場です。市長与党も昨年11月市会に56団体から出された「増税中止」の請願を不採択にしました。

秘密保護法は廃止すべき



4月からの消費税増税中止を

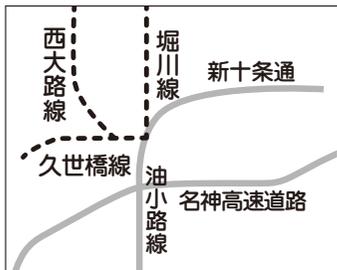


ムダな大型公共事業をストップさせる

共産党議員団は、試運転開始後もトラブルが続いた焼却灰溶融施設について、「技術的に未完成の施設であり、ムダづかいの典型だ」と批判。市民のみなさんとともに「稼働中止」を求めてきましたが、昨年8月に住友重工との「工事契約解除」に追い込みました。

高速道路未着工3路線

共産党議員団は、ムダと環境破壊の市内高速道路建設に当初から反対してきました。残る未着工3路線（堀川線・西大路線・久世橋線）の総事業費は2900億円。計画の中止を繰り返しましたが、2012年3月の市議会でも、市長は事実上、「廃止」を表明しました。



未着工3路線

市民サービス切り捨て、職員削減の「京プラン」は撤回を

4年間で250億円の福祉・教育予算を含む経常経費を削る「京（みやこ）プラン」実施計画は、国の構造改革路線をそのまま京都に持ち込むもので、くらしを守るためには、「京（みやこ）プラン」の撤回が必要です。

市バス・地下鉄運賃、水道料金の値上げ中止を

消費税増税にあわせた市バス・地下鉄運賃の値上げ、上下水道料金の値上げが提案されましたが、これに反対して議会で論戦をおこなったのは日本共産党だけでした。他党派・無所属の議員は、昨年10月からの水道料金値上げも含め、すべての値上げ提案に賛成しました。



「市民の宝物」

敬老乗車証を守れ

敬老乗車証について、京都市は、乗るた

台風18号被害への緊急対策と復旧支援に全力

市内にも大きな被害をもたらした昨年9月の台風18号。共産党議員団として、200カ所をこす被害現場を調査し、緊急の対策と復旧支援などについて、京都市に3次の申し入れを行いました。引き続き、すべての被災者の復旧支援と一日



市内にも大きな被害をもたらした昨年9月の台風18号。共産党議員団として、200カ所をこす被害現場を調査し、緊急の対策と復旧支援などについて、京都市に3次の申し入れを行いました。引き続き、すべての被災者の復旧支援と一日



台風18号の被害対策について京都市に申し入れ

焼却灰溶融施設——契約解除

共産党議員団は、試運転開始後もトラブルが続いた焼却灰溶融施設について、「技術的に未完成の施設であり、ムダづかいの典型だ」と批判。市民のみなさんとともに「稼働中止」を求めてきましたが、昨年8月に住友重工との「工事契約解除」に追い込みました。

みなさんと力をあわせ、切実な要求を次々に実現

市営住宅の風呂がまは京都市の責任で取り替えに
 請願の紹介議員になったのは共産党だけ。毎年、市に要望してきました。

市バス均一運賃区間が嵯峨・嵐山地域に拡大

10年来の地域住民のねばり強い運動と市議会での論戦が実ったものです。

西賀茂北部の柵野に市バス路線が走ることに

西賀茂車庫までの市バス路線延長を求めてきた住民の悲願が実現したものです。

JR太秦駅、阪急西院駅等でバリアフリー化が前進

2014年度はJR桃山駅、阪急嵐山・松尾大社・上桂駅で基本構想が策定されます。